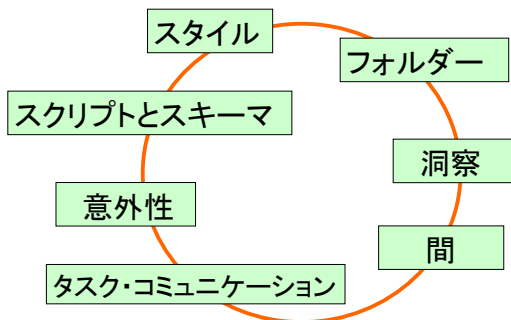


2008年9月 ことばのテーブル学習会

キーワードから考える ことばの学習(2) ～会話能力を中心に～

言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太

今回のキーワード



はじめに

スタイル
style

スタイル

様式や型、流行 独特な味

会話のスタイル

北杜夫著 「どくとるマンボウ航海記」での描写

★コミュニケーションは意味の伝達だけではない

★機能語やイントネーションが中心となる会話

「×○◆△て、 ×○◆△て、×○◆△ちゃった…
うん…え?…あー ×○◆△ようよ 」

実質語がなく、助詞や助動詞、あいづちのみが表出

音声言語の発達が未熟で、社会性・対人関係性の良好な子どもに、認められることがある

↓
情緒交感のため、会話の外郭のみが優先形成

会話が伝えるもの

情報の伝達だけではない

- ◆ 気持ちの交流 (共感の形成)
- ◆ 安心感 (不安の軽減)
- ◆ 充足感 (共有した時・間)

会話は、ひとりひとり異なるスタイルを持っている

- 声の大きな人
- 早口な人
- はっきりとした言い方をする人
- 表情が豊かな人
- よく、うなづく人 etc

コミュニケーションのためには

それぞれの会話スタイルに対する理解と受容

会話を構成するもの

パラ言語

- あいづち・うなづき
- 表情
- 視線
- 声の調子
- 身振り etc

- ★ 話しの開始と終結
- ★ 問いかけー応答

- 疑問
- 説明
- 叙述

※言葉だけが伝える量は、全体の3割にすぎない

(birdwhistell1970)

会話研究における用語

- ターン／ターンテイキング
- 隣接対
- 含意
- 省略

会話サンプルの分析

開始

「ただいま」	ターン	隣接対	挨拶
「おかえり」	ターン		
「ばんごはん、たべた？」	質問	含意: 食べるか?	
「まだだよ」	応答		含意: 用意して
「じゃあ、まってて」	要請	省略: 夕飯の準備	
「すぐ、できる？」	質問		
「おなか、すいてるの？」	質問	含意: 夕飯の準備	
「だって、おひるも食べてないんだよ」	応答		yes

●ターン／ターン・テイキング

ターン・テイキング＝話者交代システム

他者選択：話し手が次の話し手を選択する

* 方法には文化による差があり

ターン保持：フィラー（言い淀み）などにより、自分の発話継続を示す

●隣接対

やりとりを構成する連続した2つの発話

「おひるごはん、なに、食べた？」 前半部

「ハンバーガー」 後半部

* 前半部が会話を支配する

隣接対は、会話のもっとも中核となるスタイル

幼児の隣接対の発達

隣接対後半部の応答 2才から、認められ始める
3才でも、50%の応答
5才では、ほぼ応答可

↓
会話システムの理解・運用

母親からの援助（足場かけ）

平均発話長（語連鎖）が1.5以下（2オレベル）のときに多い

母親による隣接対学習の援助

母親は、さまざまな形で、子どもの、隣接対学習を援助している

母 おべんとう、なに、食べたっけ？

子 …

母 たまごやき、あったよねー

あまくて、おいしかったよね

なんだっけ… おぼえてる？

足場かけ 援助

会話相手の異なりによる差

子ども－大人

大人の発話量が多く、質問が多い → 会話の主導権
子どもは、完全でわかりやすい発話をする傾向
子どもは、会話内容に対する注意が高い

* 子ども－家族

もっとも、よく話す → 背景知識の共有・心理的安心

子ども－子ども

誤用表現が多い／主導的な会話参加が行われやすい

★指導室での会話

質問が多くなる傾向がある

→ 隣接対前半部＝会話支配

↓
とくに会話が苦手な子どもにとっては、ストレス

↓
子どもからの、会話の開始を促したい

↓
どんな会話から、トークを始めるか？

↓
「質問」や「要請」「感情」を誘導するようなもの

「先生、さっきから、おなか、いたいんだ・・・」
 (隣接対の予想・期待)

- だいじょうぶ? 感情
- どうしたの? 質問
- たべすぎだよ 要請・判断

会話の主導権の委譲を図る
↓
主体的な会話の産生

「さっきさあ、お金、ひろったんだ」
 (隣接対の予想・期待)

- 見せて 要請
- いくら? 質問
- いいなあ 感情

● 含意

ことばに込められている話し手の意図

「おにいちゃんが、そこにいるとテレビが見えないよ」
どいて!

「そういえば、冷蔵庫にビール、冷えてたよね」
飲みたいな

含意がわからないと、ことばを文字通りに受け取ってしまう

● 含意

「ケーキ、ちょうだい」 直接発話行為

「ケーキ、たべてもいいの?」
「ケーキ、おいしそうだなあ・・・」
「ケーキ、だれのかな・・・」

発展 ↓

間接発話行為

間接発話行為の増大とともに、会話の含意の理解向上

● 省略

談話において、語や文が省かれること

日本語における主語の省略
ぼくが 朝ごはんをたべた 電車が やっときた

その他の語・文(内容)の省略
今日、どうだった? テストの結果:
会話者間で共有する知識・関心

↓
コンテキスト(文脈)による読み取り

会話の種類

- 会話
- 対話
- 演説・講演 他者

- 語り(ナラティブ)
 - * 経験の語り * ストーリーの語り
- 報告
- 説明・叙述

会話と対話

【会話】
すでに知りあっているもの同士の楽しいおしゃべり
特徴) ・文が短い →省略多・無駄なし
= 共有知識・共同意識が高い

【対話】
他人と交わす新たな情報伝達や交感
特徴) ・文が長い →省略少・無駄あり
⇒ 共有知識・共同意識が低い

家庭内・療育場面
= 会話と対話どちらの局面も存在する

それぞれの知識・能力向上を促す必要性

発達が未熟な子どもの報告の特徴

- * 映像的断片の言語化
- * 時制・アスペクトの混乱
- * 出来事の順序の転置
- * 連想発話
- * 主題維持困難
- * 枝葉末節の事柄の説明
- * 相手の理解に対するフィードバックの少なさ
etc

★なぜ、過不足なく応答できないか？

要素的な問題としては

- * 記憶力
- * 注意力
- * 言語表現力(語彙・文法)

しかし、もっとも問題となるのは…

何を、どのように話してよいかわからない



経験は、断片的に想起されるが、
連続性を持っていない

相手が知りたいと思
うことがわからない

報告の練習

■ 時系列的・番号順的な語り



■ 場面展開を軸とした語り

フォルダー

folder

フォルダー

folder

さまざまな情報を収納する、心の引き出し

フォルダーの意義

知識はフォルダー化されることにより
効率化・高度化する

情報処理
能力の向上

情報の取り出しの効率化

行動の見通しを立てる

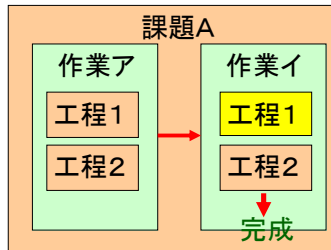
情報内容の気づき・理解

フォルダーの役割①

時間的・空間的見通し(構造化)

1時間目:算数
2時間目:国語
3時間目:音楽
4時間目:生活

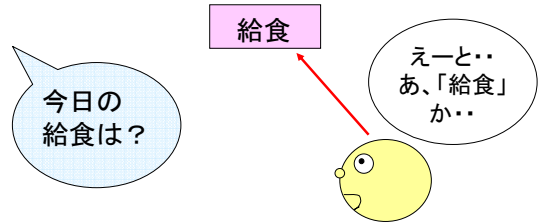
時間的見通し



空間的見通し

フォルダーの役割②

情報取り出しの効率化



フォルダーの役割③

抽象的な事柄の概念化

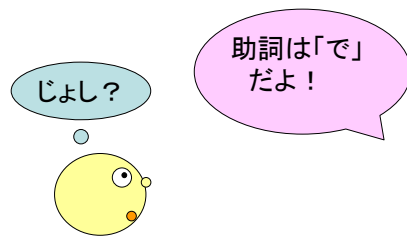
A
B
新しい問題
C

行ったことあるところ
行ったことないところ

終わったもの
これからのも

フォルダーの役割④

命名(フォルダータイトル)による意識化



標識の付与

意識しづらいものに形を与える

フォルダーの利得

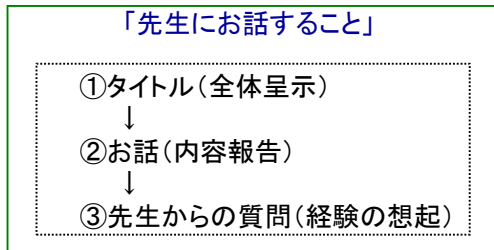
- 取り出しやすい
- 容量が小さい ⇄バラバラ(容量大)
- 階層化による概念の高度化

課題の中での用いているフォルダーの具体例

- 「給食」フォルダー
 - * 給食の内容を聞く
- 「1時間目」フォルダー
 - * 1時間目の授業と内容を聞く
- 「つばさくんのにつき」フォルダー
 - * ききとり練習をする
- 「先生にお話すること」
 - * 過去のエピソードを報告する

フォルダー内の階層化

例:「先生にお話すること」フォルダー



フォルダーの形成

時系列的・番号順的な語りの実現

場面展開を軸とした語りの実現

スクリプト と スキーマ

script

schema

スクリプト

行為系列についての知識

【レストランで食事をする】

- A レストランに入って、席につく
- B 注文をする
- C 待っている
- D 食事をする
- E お金をはらう

テーブル 椅子
メニュー コップ
おしゃべり
皿 フォーク
レジ お金

スクリプトの知識を育てるもの

「慣例化」した定型的な活動の実践

↓ 食事・買い物・診察・・・

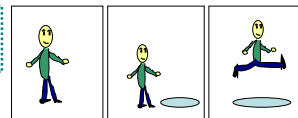
- 活動の言語化(おしゃべり)
- 筋書きにもとづく遊び 例:おままごと

*「お手伝い」の大切さ

スクリプトの知識向上により

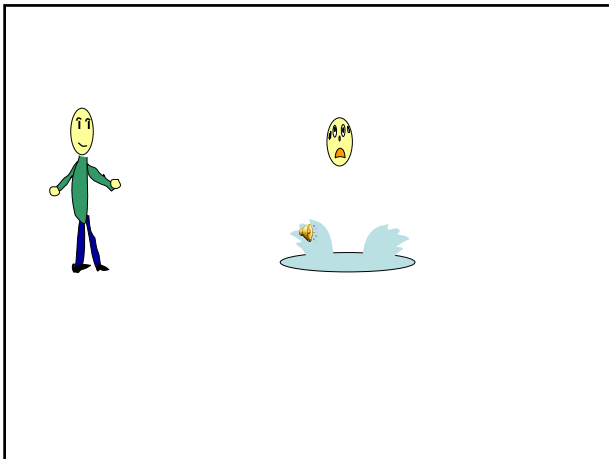
↓ 場面の予見性や関連性(文脈)理解が向上

絵画配列課題



さまざまな言語表現の理解・運用

～たら(条件) / ～ので(理由) / ～て(継続) etc



スクリプト知識のために

シラバスを用いた学習

- ★文法シラバス
- ★話題シラバス
- ★場面シラバス

etc

教える内容の一覧表

駅で電車に乗る

料理を作る

なぜ、枝葉末節なことを話すか

きょう、何してた？

「顔をあらって、歯をみがいて、服をきて・・・」

スキーマの欠如

スキーマ

物や事柄についての共有知識

みんなが共通に知っていること **常識**

↓

みんなが共通に知っていることを知っている

↓

共有する知識の部分は、省略しても良い **共通感覚**

他者心理の洞察が重要

洞察

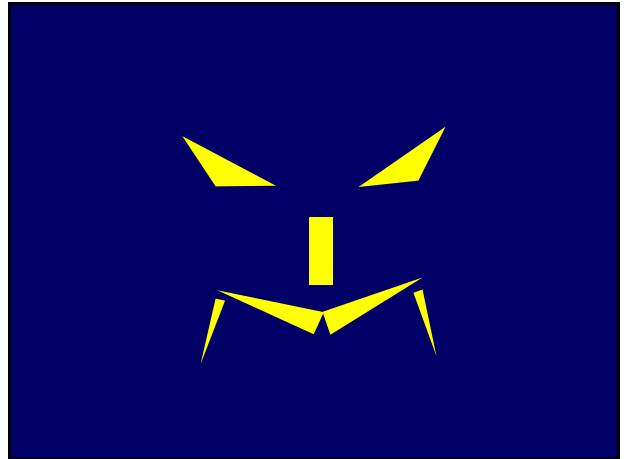
insight

洞察

insight

人間の心理や事柄の本質を見通すこと

ソクラテス「無知の知」



「何を知っていて 何を知らないか」を知る

そのことにより、知識の地図を描くことができる



これから進むべき道が示される

「イヌの足は何本か知ってる？」

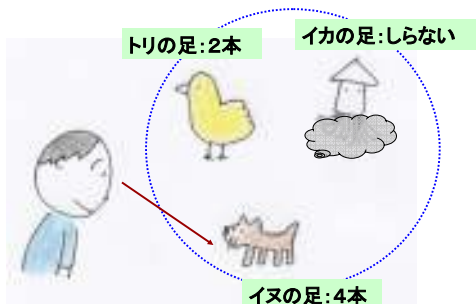
「4本」

* 知識はあるが、知識状況の洞察×

「知ってる」／「知らない」

* 知識状況の洞察可能

知識の地図を覗き込む



トリの足:2本

イカの足:知らない

イヌの足:4本

知識の地図を覗き込む

「4本」
なぞなぞの
レベル



「知ってる」

読解問題
文章題
の理解



対象からの分離

- 知識の言語化(明示化)
より高い水準の思考への過程
- 自己認識の向上
困難な状況の克服

「ぼくは、計算が苦手だから、気をつけよう」

主題文・判断文の重要性

「Aは、Bです」

助詞「は」の使用＝言語・思考の高度化を示す

ママが、おこる = 現象
ママは、こわい = 判断

ケーキを、食べたい
ぼくは、ケーキ ⇒ 自己を客観視

会話の原則(グライスの協調の原理)

- ①嘘は言わない
- ②必要なだけの情報量
- ③関係のないことは言わない
- ④順序立てて言う

この原則に基づいて会話内容を判断

発達障害の子ども → 悪気はなく、相手を欺いている

より正確に知り → 伝える

「自信がないけど・・・」
「はっきりはわからないけど・・・」
「～と思う」
「わからない」
「～か、～の、どっちかだと思う」

学習として

①洞察のトレーニング

- ◆ 自分に関する情報の洞察
- ◆ 他者に関する情報の洞察

所有	存在
能力	嗜好
知識	思考
経験	意図

②ことばの学習

- 例: * 主題文・判断文
* 可能動詞(書ける・書けない)
* 存在・所有文(ある・ない)
* アスペクト(～ている)
* 伝聞・推測表現 など

ムード

mood

ムード

mood

話し手の気持ちや心の状態を表す文法形式

●ムード

- * 推測 雨が、降るようだ
- * 勧誘 いっしょに食べましょう
- * 伝聞 おいしいらしい

etc

日本語におけるムード

- * 受身・使役受身文 ⇒ 迷惑をこうむる
- * 使役 ⇒ 強制・威圧
- * 行為の授受表現 ⇒ 好意
- * 存在・所在文 ⇒ 驚き・発見

etc

* 受身(間接受身)・使役受身文

人が、行為や出来事によって、迷惑や被害をこうむる、というニュアンスがある



語用能力を高めるためには・・・



言語学習の際に、日本語において、語や文に特徴的な、ムードを、感じさせる

存在文・所在文の場合

<p>所在文 生物</p> <p>Bが、いる Bが、いない</p> <p>ネコが いる おかあさんが いない</p>	<p>存在文 非生物</p> <p>Aが、ある Aが、ない</p> <p>りんごが ある 家が ない 勇気が ある すきが ない</p>
---	---

生活の中では、どんなとき、どんなふう言う？

驚き あった！ いた！
落胆 なーい いなーい
伝達 あるよ いないの・・・ あったな

主語が入る場合

ぼうし あったよ！
おかあさんが いないの・・・
おにいちゃんなら いないよ

発見・驚きの「あった」「いた」

過去を表す、時制の用法ではない

主語、格助詞は省略される

「ぼうし、あったよ」は、
「ぼうしがあった」の助詞省略形ではない

↓

「ぼうしがある」「ぼうしがあった」という構文を
教えても、発見のあったは身に付かない

「あった」の学習

探索課題を用いての練習 「さがしてみよう」

授受表現の例

行為の授受表現

～てあげる・～てもらう・～てくれる

習得には、まず「て形」になれる必要

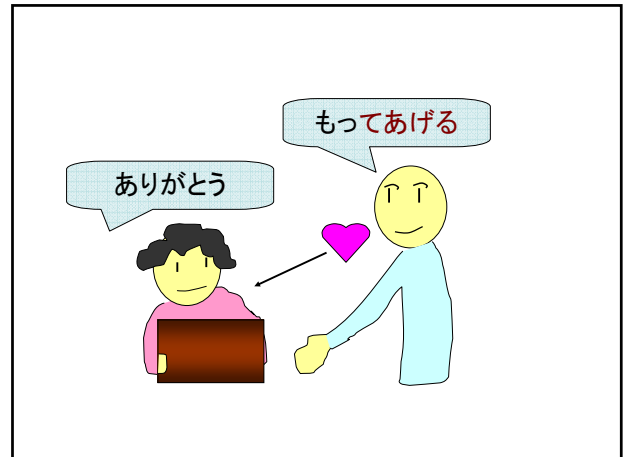
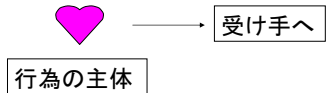
- ・～ている
- ・～てみる
- ・～てください → 依頼形が重要

行為の授受表現の特徴

好意的に何らかの行為を行う



★好意の移動をイメージさせる



終助詞の例

終助詞とは

「よ」「の」「ぜ」「な」「ぞ」「わ」など

話し手の主観的な気持ちを表現する

話し手と聞き手の認識のギャップを埋めるために働く

●文の表出 (綿巻・大久保らの研究より)

	●構文の型	●助詞・助動詞の種類 ★その他の特徴
1才前後	一語文	
1才半	一語+助詞	終助詞「ね」「の」
1才半~10ヶ月	二語文	*疑問詞の出現(コレナニ?)
2才前後	三語文・多語文	格助詞、係・副助詞 *発話明瞭度9割
2才半前後	複文(節)	助動詞の多様化 *共同注意請求・心的状態語
2才半前後~3才	文章の構成	*疑問詞「なぜ」の出現

終助詞「よ」のはたらき

「よ」

宿題、
やったよ!

話し手の方が聞き手より認識の度合いが高く、また、話し手が、聞き手にとって、その情報を得る必要があると考えて、聞き手に伝える文につける



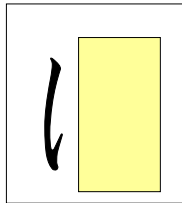
「ね」

これ、
おいしいね

聞き手の方が、認識の度合いが高いと、話し手が考える情報について、聞き手の認識を通して、話し手の認識を高めるための文につける

課題② 「～かなあ…」を使った会話

「け」…
かなあ…



なーんだ？

「成長する教師のための日本語教育ガイドブック」より

課題① 「～よ」の練習

先生、
おわったよ

きったよ

ぬったよ

はったよ

あ、おわった？
じゃあ、つぎは…

なにかのワーク・作業

イントネーションについて

イントネーション(音調)とは

高低のメロディーの変化を中心とした文の抑揚

もう、たべた？

もう、たべた

文のタイプの違い・文の完結性・話し手の感情・含意などを規定・表現する

イントネーションの文法

●イントネーションの文法

文末の上昇 いった？ 疑問

文末の下降 いった 肯定

いいよ いいよ → 許可・肯定

いいよ いいよ → 拒否・遠慮

ん → 許可・肯定

ん → 疑問・不審

ん → 検討

ん → 否定・拒否

イントネーションの練習 ①

文脈・ムードの設定



プリント、
もっと
いっぱい、
あげよっか？

いいよ

Yes

宿題を、たくさんやるはめに

いいよ

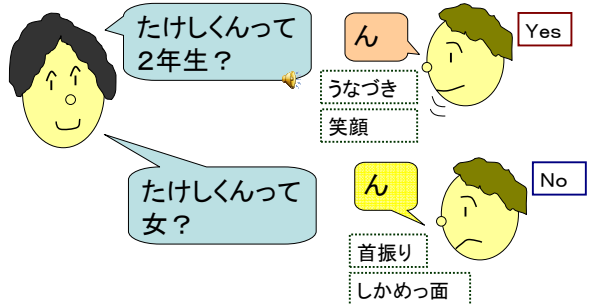
No

宿題、少なくてラッキー！

伝達結果のフィードバック

イントネーションの練習 ②

パラ言語を合わせて提示・学習



省略
ellipsis

省略
ellipsis

コミュニケーションの中で、省かれべきもの

日本語の特質

主語の省略 動詞文における動作主の省略

主題文・存在文などは、基本的に主語は、省略されない

会話においては、主語だけでなく、文の様々な要素が省略される

現象文 「～が～」「～が～ている」

* 主観を交えず、眼前の出来事を客観的に描写

おかあさんが、テレビを、みる

おとうさんが、くつを、はいている

判断文・主題文 「～は、～」

* 評価・判断・解釈を述べる

* 主題と関係する出来事や動作を述べる

おかあさんは、こわい

おとうさんは、くつを、はいている

構文練習を考える



おかあさんが ラーメンを たべる

目的・意義 ● 文における項の把握・認識 ※項:構成要素
● パターン・プラクティスとしての効果

高度に、抽象的な現象文 ⇒ 視点形成の成熟が必要

日常の会話には、使われることは少ない

動作主は、省略されている場合が多い



おかあさんが ラーメンを たべる

実際の日常場面での使用は...

「おかあさんが ラーメンを たべたの？」 質問 動作主の

「おかあさんが ラーメン たべてね」 依頼 強調・対比

「で、おかあさんが ラーメンを たべるんだ」 叙述 文脈

「おかあさん ラーメン たべてたよなあ」 叙述 感情

動作主を取って述べる → 特有な意味の発生

会話文の理解に求められるもの

- 文脈の把握
- 視点の形成
- 強調部分の認識

発達障害児 → 視点形成が未成熟

一人称での視点でしか語れない場面が多い

日本語会話においては、動作主は省略

会話文法 — 省略形での言語形式の理解・表出を促す工夫が必要

高度な文法表現の学習の場合

【あげ・もらい文】

まず項の少ない言語形式での学習

もらった → Cをもらった Bにもらった → AがBにCをもらった

日常的なやりとりの中での学習

「このプリント、もう、あげた？」 「鉛筆削り、かして」
 → 「あげた」 × 「いいよ、かしてあげる。...いま
 「もらった」 ○ ~君は、先生に鉛筆削りを？」
 「かして...もらった。」

意外性

surprise

意外性

会話関係におけるトリック性

トリックスター

trick star

いたずら者。

常識や慣習を破壊しながら、周囲の状況を、劇的に変化させて行くことができる存在

導者・援助者としての側面を持つ

会話におけるトリックスターとは？



会話関係に**意外性**をもたらすもの

会話におけるトリック性

- 対話者のトリック
- ことばのトリック

意外性に富んだ内容や言語表現により、会話の本質や内実に気づきをもたらす

療育場面におけるトリック性

ときに、非日常的な場面を演出→触媒としての役割

会話におけるトリック性の意義

パターン依存化した会話関係に変化を促す

異化作用

均質なものの中に、異なるものを入れることにより、それぞれの性質を際立たせる

パターン依存傾向・固執傾向の軽減

会話の内実への気づき・注意

会話の面白さへの気づき

他者の心理への気づき

会話において破調を作る

- * 意外な応答
- * よくわからない内容の発話
- * 会話テンポの変化
- * ことば遊び

etc

会話において、こころがけていること

積極的に話す

会話の内容に関心を持つ

対等に話す

会話のリズムに変化を与える

ムードをわかりやすく示す

会話の流れをとめない flowする

感情を素直に表す

会話において、こころがけていること

質問について

不必要な質問・関心のない質問は、あまりしない

質問形式を変化させる

5W1H、YES-NO、間接質問 etc

質問の量・方向などを、わかりやすく示す

3つだけ質問！／お母さんのこと聞くよ！ etc

タスク・コミュニケーション

タスク・コミュニケーション

タスク(課題)や作業を通しての会話

学習課題やゲーム・スポーツ...

協同行為を通して感じられる会話関係

- 学習課題
 - ・絵カードの呼称
 - ・計算 etc
- ゲーム
 - ・しりとり
 - ・将棋 etc
- スポーツ
 - ・卓球
 - ・テニス etc
- その他
 - ・合奏

◎ 会話らしさを作るもの

行為の交互性 ≡ ターン・隣接対

一定のルールや、技術のやりとり

注意・集中の水準の高さ

能動的な取り組みが、なされている

情緒が交感されている

両者をつなぐフィールドがある

リズムカルなテンポがある

充足感の形成

間

ま

あいだ

pause?

between?

木村敏の思索活動

「人と人之間」

「自分ということ」など より

離人症・統合失調症からの知見

間(あいだ)

together

合い会う

空間的場所のイメージ

間(ま)

timing

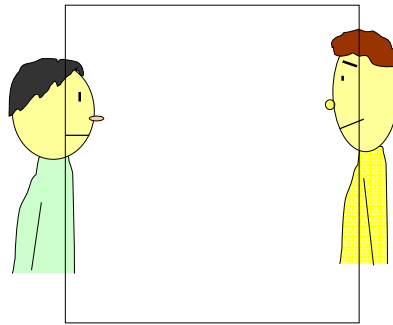
時間的間隔のイメージ

離人症の症状

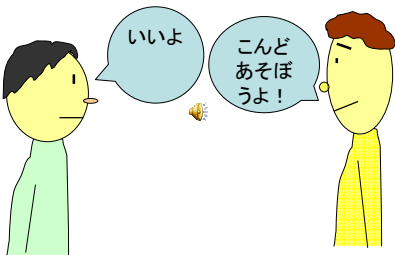
- 物に存在感がない
- 時間が過ぎて行く感じがしない
- 音楽がわからない
- 遠近感がない
- ドラマを見ていても意味がわからない
- 自分が存在していると感じられない

知覚・知能は正常 : 「モノ」はわかる
意味が喪失されている : 「コト」がわからない

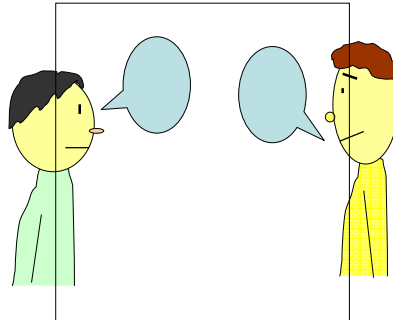
間(あいだ)



間(ま)



ふたつの間により、コミュニケーションは成立する



きれいだなあ...

「花をみている」こと → 人と花を出現させる

花をきれいだと思う
花をみている

3つのうちのどれを取り去っても、世界は成り立たない

関係の中にも、リアル(現実感)がある

離人症: 間をうまく生きられない

人がいる

花がある

共通感覚

「こと」についての感覚 赤い・甘い・動いている...

間(あいだ)や間(ま)によって、育まれる

視点形成 心理洞察 共感・愛着
常識 省略 ムード

ふたつの間により、私たちは、生かされている



「もの」から「こと」へ



【参考・引用図書】

- 「日本語の文法」 ひつじ書房
- 「ディスコース」 ころしお出版
- 「談話分析の可能性」 ころしお出版
- 「日本語教育ガイドブック」 ひつじ書房
- 「子どもの宇宙」 岩波新書
- 「自分ということ」 ちくま学芸文庫
- 「はじめての日本語教育」 凡人社
- 「ことばの発達と障害」 大修館書店
- 「演劇入門」 講談社現代新書
- 「どくとるマンボウ航海記」 新潮文庫

